



社会福祉法人 博愛会
デイサービスセンター ルーエハイム



立春とはいえ余寒厳しき折柄、いかがお過ごしでしょうか。一枚一枚、ころもを脱ぐように温かみを増してくるのがこの月なのですが、まだまだ寒い日が多くて、「水ぬるむ」日が待ち遠しい今日この頃です。この時期には毎年のように、ルーエハイムの敷地に“目白”が飛来し、用意したミカンをついばむ様子が見られます。その愛くるしい姿には心とまされ、春への期待が膨らみます。ご利用者様も元気にお過ごしいただいております。その様子をお届けいたします。ご一読下さい。

* 月に1度おやつ作りをしています * 1月 25日 (月) さつま芋アメリカンクッキー作り



ちょっとお洒落なアメリカンクッキー作りに挑戦しました。アメリカンクッキーとは、バターと三温糖、サラダ油を多めに使い、日本のクッキーとは食感が異なった、ふにょとして柔らかいクッキーです。

今回はバターが多く、混ぜ合わせるのが大変ということで、秘密兵器“電動泡立て器(ハンドミキサー)”の登場です!

「ガタガタして手が震えるわ～」と言ってみえた利用者様も、使い慣れてくると、「早いなあ、便利やわ!」と手際よく混ぜていただいていた。材料を混ぜた後に形を作っていた。だき、厨房さんで焼いてもらって完成です☆
今回も、柔らかくて甘～いクッキーは皆様に大好評でした☆



* 毎月10日はトモの日! * 2月 10日 (水) 京都料理

- ☆ きつねご飯
- ☆ 鯛の西京焼き
- ☆ ひりょうずの炊き合わせ
- ☆ 水菜の白和え
- ☆ 茶そば



☆ おやつ ☆



豆腐ドーナツ

☆ 一口メモ ☆

元々は精進料理であったひりょうず。精進料理は、食物繊維や各種ビタミン、ミネラルなど、現代人に足りない栄養素が豊富に含まれ、地元で採れた旬の野菜を使ったりして作られた料理であり、究極の健康料理とも呼ばれており、注目されています。



サービス利用・デイ通信へのお問い合わせは

〒510-0266 鈴鹿市長法寺町字権現 763

E-mail ruheheim@circus.ocn.ne.jp

Tel 059-372-3811(代) fax 059-372-3814

ホームページ <http://www.ruheheim.com>

※ ホームページ スタッフログの“ルーエハイム通い”では、デイサービスセンターの行事等を紹介しています。





* 毎日個別機能訓練を行っています *

ルーエハイムでは毎日、身体の健康・脳の健康・創意の向上を柱としたレクリエーションをおこなっています。筋力向上トレーニングや脳を積極的に使う要素を盛り込んだレクリエーション、また創意工夫することや自己表現の意欲を引き出す創作活動など、ご利用者の皆様に楽しんで、遊びながら自然に体を動かし頭を使っただけのようにと提案させて頂いています。“いくつになっても自分のことは自分でやる”意欲を大切に考え、“いくつになっても元気”でいらっしやるように、私たちスタッフは応援させていただきます。



♪ デイサービスセンターでは音楽療法を行なっています(週1回隔週の水・金曜日)

☆ 梅の季節になりました ☆

今月は、“^{まむろがわ}真室川音頭”（山形県民謡）を唄っています。皆さんの唄声に鳴子と

ヴァッフアロードラムの軽快なリズムが加わり、テイルーム内ににぎやかな音楽の花が咲きました。

「わたしゃ 真室川の 梅の花～

あなた また この街の うぐいすよ～ …」

最後は音楽療法士の「よお～っ！」の合図で「ドンッ！」とシメの音も決まり、利用者様のお顔には笑顔があふれていました。

by 音楽療法士 A・K



* ボランティアさんが来てくれました *



※ 2月6日(土)にネイルケアのボランティアさんに来ていただきました。ご利用様のだなたも、ネイルケアは初体験で、最初は「爪に絵の具を塗るんですか?」「どんなんやろ?」といった戸惑いの声もありましたが、きれいに形を整え、マニキュアをしていただいた爪をご覧になったとたんにニコニコと

「こんなにきれいにしてもらいました♡」と職員に見せてくださり、「どれどれ」「私も私も」と7名の方がネイルを楽しまれました。表情も明るく、お若くなられたようです。「また来てほしいです」と好評の声に「ではまた4月に来ますね!」とお返事いただきました。次回も楽しみです。ありがとうございました。

※ 2月9日(火)には大正琴のボランティア「琴世会」の皆様に来ていただきました。その素晴らしい演奏を聴くにつれ、涙ぐむ利用者様までいて、「よかったですわあ」「ええ音ですなあ」と感動しきりでした。美しい音楽をどうもありがとうございました。



編集後記

バンクーバーで冬季オリンピックが開催されます。今年は暖冬で、雪不足に地元では苦労しているようです。一方、シベリアでの抑留生活を経験された方が「寒い国の寒さは日本では想像できない」と言われたことを思い出しました。「寒さ」の苦労にも人それぞれの思い入れがあるようです。記事を書いている私は、いま窓の外の「チラチラ」としたものを不思議な気持ちで眺めています。

那須・佐々木